

強者の戦略

【生物：第1章：「生物の問題なのかどうかわからなくなるような問題」 2011年神戸大学前期試験より】

「アメーバ経営」とは、京セラの創業者である稲森和夫氏の経営哲学で、「確固たる経営哲学と精緻な部門別採算管理をベースとした経営手法」です。経営書も多く出ていますので、興味があれば読んでみて下さい。(本当は経済学部や経営学部をめざす文系諸君に読んで欲しいのですが)。

問題本文にもやんわりとアメーバ経営の解説が書かれています。改めて簡潔に述べてみます。

会社の組織を「アメーバ」と呼ばれる小集団に分け、社内公募したリーダーに各アメーバの経営を任せる。このとき、リーダーが各アメーバの経営計画や戦略を立て、アメーバ単位で透明な独立採算制をとることで、売上を最大にして経費を最小化する意識をメンバーに持たせることができ、やりがいや達成感を持った「全員参加経営」を実現できる。

誤解を恐れずに言うと、会社の存在目的は利益の確保。そのためには社員も組織体も効率よく働いて、稼ぎ、無駄を省かなければならない。徹底的にコストカットし、生産性や売り上げを上げることで大きな利益を獲得しなければならない。そのためには全社員に気持ちよく働いてもらわなければならない。つまり全員参加経営が必須。ということで、そのための手法の一つが「アメーバ経営」なのです。

ところで、どんな会社や組織でもアメーバ経営が成功するわけではありません。売り上げと経費を明確に算出できるように標準化し、経営をガラス張りにしてルール化し、そしてトップ自らが揺るぎない経営哲学を実践しなければなりません。さらに、一度作られたアメーバも、常に構成を見直し、必要に応じて再構築したり、競わせたり、見直したりしな

ければなりません。有機体的な企業経営土壌がなければアメーバ経営は困難なのです。

ところで問2と問3は問題本文とは関係がない知識問題です。しかしこの2問は神大合格者レベルなら完答できますから、問1で差がついてしまいます。やっぱり問題文をキチンと読むしかないようです。

問1：(a) 企業アメーバは成長すると複数の様々な大きさのアメーバに分裂するが (L.5)、生物アメーバはヒトの白血球と共通した増殖のしくみを持つ (L.12) とあるので、体細胞分裂によって二分裂すると考えられます。よって正しい。

(b) 構成要素、つまり生物アメーバにおいては核や細胞質や細胞小器官は原則として均等分配されます。よって誤り。

(c) 一般に生物アメーバは母細胞よりも大きく成長することはないはずである。企業アメーバではアメーバの大きさに限界はなく、大きなアメーバも混在しています。よって正しい。

(d) 通常状態で、生物アメーバが融合・合体することはありません(企業アメーバなら融合・合体の可能性はあります)。よって誤り。

【解答例】

問1：a, c

問2：(1)：抗原 (2)：免疫 (3)：フェロモン

問3：ナトリウムポンプ等による能動輸送は、ATPをADPとリン酸に分解するとき生じるエネルギーを用いて、膜内外の濃度差に逆らってイオンを輸送する。また、イオンチャネル等による受動輸送は、チャネルが開いていれば膜内外の濃度差に従ってイオンを輸送する。